

蕨・戸田
地区

保護司会だより



2,000m静水・戸田ボートコース（昭和39年の東京オリンピック開催会場）

「更生保護の啓発に向けて」



戸田市長 神保国男

「蕨・戸田地区保護司会だより」の第2号が発刊されるにあたり、ごあいさつ申し上げます。

皆様には、平素より地域の更生保護事業に多大なるご尽力を賜り、心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

昨年、記念すべき創刊号が発刊され、多くの関係者や市民の皆様目に触れることで、更生保護の重要性や保護司の仕事について広く認識いただけたことと存じます。この度の第2号を通じて、地域の理解が更に高まり、安心・安全なまちづくりの実現が一層進展することを切に願っております。

本市における更生保護の啓発活動については、毎年7月に「社会を明るくする運動」として、市内3駅での駅頭キャンペーンを実施いただいております。私も毎年参加しておりますが、本運動はすっかり定着し、啓発品の配布

の際は、市民から毎年楽しみにしているとお声をいただきます。また、本運動に対する理解の声も寄せられるようになり、地道な啓発活動が着実に実を結んでいることを実感している次第です。本年は社会を明るくする運動の第65回目を迎えます。犯罪のない明るいまちづくりの実現に向けて、市民一人ひとりの参画意識を高めるためにも、今後とも積極的な普及・啓発活動の展開をお願い申し上げます。

行政におきましても、地域の力を高め、誰もが安心して住める明るい社会の実現に全力を注いでまいりますので、今後ともなお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、蕨・戸田地区保護司会の一層のご発展と益々のご活躍を祈念申し上げます。あいさつといたします。

地域に根ざした更生保護活動



さいたま保護観察所長

笹井啓二

蕨・戸田地区保護司会の皆様並びに関係機関・団体の皆様には健やかに新年をお迎えのことと思います。日ごろより更生保護事業に御尽力・御協力をいただいておりますこと改めてお礼申し上げます。

さて、地域における更生保護の活動拠点として、各地域で更生保護サポートセンターの開設が進んでいます。当地区においても、保護司の皆様の御尽力と戸田市及び蕨市等の全面的な御協力により、開所に向けた準備が着々と進んでいます。同センターは、保護司相互の情報・意見交換の場として、関係機関・団体との連携の場として、また、保護観察対象者等との面接の場としてなど、設置地区の実情に

合わせて、様々な活用が図られることとなります。

観察所としてもその開設・運営にできる限り協力してまいりますので、開設された暁には企画調整保護司をお引き受けいただく保護司の方々をはじめ多くの皆様に御負担をお掛けしますが、当地区の更生保護活動が一層充実しますよう御協力をお願いします。

同センターの運営をはじめ地区保護司会の活動が一步一步確実に前進し、地域に根ざした形で展開されますことを期待します。

非行少年を生まない社会づくり



蕨警察署長

茂木 誠

埼玉県下の非行情勢は、昨年の非行少年が五三七七名（前年比一二五五名減）であり、本年も一〇月末現在三三三九名（前年比九一二名減）と減少化傾向にあります。一方、当署管内を見ますと昨年の非行少年が一九〇名（前年比三二名増）、本年一〇月末現在一七二名（前年比二一名増）と増加傾向で厳しい状況が続いています。

これら非行少年の環境を見ますと「保護者が教育やしつけに無関心」「家庭にも学校にも居場所がなく孤立」など家庭の問題が主な理由となつていると言われています。このような状況であり、最近の少年非行背景には、従来、少年の規範意識の醸成を担ってきた家庭や地域社会の教

育機能の低下、少年自身のコミュニケーション能力不足、少年が自分の居場所を見出せず孤立し、疎外感を抱いていることなどが少年の規範意識の低下の要因となつて、再非行に走つてしまう少年が多くなつています。これらの少年に対して声を掛け、手を差し伸べ、立ち直りを支援する活動が重要であり、今、皆様方、保護司会の活動が「非行少年を生まない社会づくり」に貢献するものと期待しております。

蕨警察署といたしましては、今後とも皆様と連携を図り、更生保護活動を支援していきたくと考えておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

更生保護の充実に向けて



蕨・戸田地区保護司会

会長 二輪一榮

日頃、戸田・蕨市民の方々には私ども保護司会活動に、深いご理解とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、近年更生保護を取り巻く環境が変わり、私たち保護司の果たす役割についても社会の期待が高まっております。そうした中、法務省から保護司会活動の拠点・面接場所として「サポートセンター」の設置が求められており、すでに埼玉県内で5保護区に設置されております。当保護区におきましても機会をとらえて戸田・蕨両市長に場所の提供をお願いいたしておりましたところ、神保市長から戸田と蕨が隣接する庁舎内で設置の許可を頂くことができました。神保市長のご配慮に深謝いたしますとともに、安全・安心な社会づくりのために有効活用いたしてまいりたいと思っております。

住職のひと言



蕨・戸田地区保護司会

副会長 本橋恵子

もし、私が更生保護の世界に携わることが無かったら、非行少年や罪を犯した人々を、迷いもなく、理由もなく「悪」と、短絡的に決めつけていたのではないかと思います。

約30年前、私に保護司を勧めた菩提寺のご住職は、静かに諭すようにおっしゃいました。「この世界はネ、社会の裏の世界のことで、決して楽しいことではないかもしれませんが、生きて行く上で知っていた方が良いと思えますよ……。」と。

私は、正直、その時よく理解出来ませんでした。が、困難と闘いながら、必死で生きようともがいている人々との出会いを繰り返しているうち、いつの間にか、ものの観方が変化している自分に気付いたのです。

あの時のご住職の言葉をしみじみと噛みしめる昨今です。

平成27年度 年間事業計画 (案)

2月	1月	12月	11月	8月	7月	5月	4月	
第四期地域別定例研修	役員会 広報誌発行	保護司候補者検討協議会 年末保護強化研修	第三期地域別定例研修 役員会	第62回埼玉県更生保護大会 第二期地域別定例研修	役員会 保護司候補者検討協議会	県外研修 社会を明るくする運動推進大会	懇親会 第一期地域別定例研修 総会 役員会	平成26年度監査 更生保護サポートセンター開設

活 動 報 告

社会を明るくする運動

戸田支部

七月一日、市内3駅にて、

社会を明るくする運動「駅頭キャンペーン」を行ないました。戸田市長はじめ、保護司会・更生保護女性会による啓発活動です。近年は人口も増え、電車の乗り降りも多く、また、駅に通ずるスパーでの買物客も含め、午後五時台での啓発は、暑い中でのキャンペーンでしたが、頑張り甲斐がありました。犯罪や非行がなくなり、住み良い街になる事を願い、地域の力として、これからも参加したいと思っております。

(山本)



蕨支部

前日の台風の影響を心配

しつつの準備開催でした。開催時刻には幸い台風一過の青空が広がり、出足も鈍る事なく200余名のお客様をお迎え致しました。

「子育て支援から児童虐待予防」の演題で、明治学院大学副学長松原康雄先生の講演会を行いました。

地域での子育て支援として子どもや親の居場所作りで、虐待予防を広める、愚痴の聞き役、ちよつとした手助けをまわりがしてあげる等々、具体的にお話が進められました。終了後参加者から「もつともつと聞いていたい。」と多数の感想をいただきました。

(泉山)



学校と保護司の連携について

戸田支部

戸田支部では、中学校区別に、5地区で学

校との連携活動を行っていますが、協議内容は地区ごとに議題（いじめ、非行、不登校等）を設定し、地区内保護司と学校長、教頭とで協議をしております。今、学校ではなが必要なのか、どんな協力が出るのかを情報交換しながら話し合っています。地域における非行少年の行動が大きな問題となっており、協議では非行問題を議題として、学校はどのように対応しているのか、また、生徒の親との折衝で、親の子供に対する気持ちはどうなのか、家庭環境はどうかなどの質問がだされました。保護司は学校に対しどんな協力が出るのかの問題提起もありました。彼らは何故非行をするのか、その原因は何かを知ることが解決の糸口になるとおもわれます。

児童生徒の非行や問題行動の対応に苦慮している学校を、相互に連携し、推進していくことが必要なのではないでしょうか。

(日名田)

蕨支部

夏と冬の2回各学校と話し合いを

行っています。授業参観では伸び伸びとした学習態度、集中している姿に頼もしさを垣間みました。

その後の校長先生、教頭先生との話し合いで、中学生が「地域の中で役に立っている。」「ボランティアも黙々と真摯に行っている。」「また、最近の中学生の傾向は、家で誉められて育てられているのか、注意されたり叱られることに慣れていない子が多いとの事でした。

不登校の子たちには、養護教員を一人増員しているそうです。短期間の目標をもたせて、ステップ教室にて学習をさせています。すぐには成果は出ないが長い目で見て欲しいとのことでした。

(泉山)



先へ繋ぐ

戸田更生保護女性会

会長 本橋 恵子

戸田更生保護女性会は、平成17年5月30日、「蕨・戸田更生保護女性会」より分離独立し、おかげさまで10年目を迎えることが出来ました。

この間、行政をはじめ、多くの関係機関からご支援ご協力を賜りましたことに、改めて感謝と御礼を申し上げます。

私たちにとってこの「10年」は、45年という長い歴史に続く「恵まれた10年」であることを、折りあるごとく感じさせられた期間でもありました。

振り返りますと……、昭和36年5月6日、「蕨・戸田更生保護女性会」(当初は婦人会)が誕生しました。以来、会の発展の為にご尽力され、現在の「礎」を築いてくださいました歴代の先輩の皆さまに、深く敬意を表したいと思います。そして、先輩たちの「想い」を先へ繋ぐのが、現在の私たちに課せられた使命かと思っております。

祝「更生保護女性会」10周年

私たちは、今、先輩たちに想いを馳せながら、そして、現在にも想いを巡らせつつ、この節目に次のような記念事業を企画いたしました。

- (1) 記念講演会(平成26年11月21日)
「君の笑顔に出会いたい!」
- (2) さいたま拘置支所へ記念品寄贈
(平成26年12月15日)
- (3) 記念祝賀会(平成27年2月5日)
ミニコンサート(マリンバ・ピアノ)
- (4) 10周年記念誌発行(平成27年5月)

いつも、いつも、惜しみなくご協力くださった会員の皆様あつてこそこの「10年」に心から感謝!感謝!です。これからも、更生保護というボ



ランテイアを通して、共に学び、与え合う、出会いの場を築いていけたら?と思います。

10周年に寄せて!

蕨更生保護女性会

会長 斎藤 典子

当会は、平成17年に戸田地区と発展的に分離独立してから、ちょうど10年を迎えることになりました。歴史は長く、昭和36年に「蕨・戸田更生保護婦人会」として設立してからは通算50数年になります。その間には、婦人会から女性会と名称も変わりました。

全国ミニ集会のモデル地区の指定を受け、数多くのミニ集会を実施し、地域の繋がりができましたことは有意義なことでした。また、埼玉県連盟から「子育て支援」のモデル地区の指定を受け、その趣旨を達成致しました。

10年の節目に今までの歩みを振り返り、今後の発展をめざす新たなスタートとなることを期して、11月19日、蕨市民会館において多数のご来賓のご臨席を賜り、記念式典を挙行することができました。皆様と共にお祝いできましたことは大変感慨深いものがございます。

基調講演では、山田憲児氏から「更生保護のこころ」を拝聴し、更生保護の意を様々な角度から分かり易く講演していただき好評を得ました。

言葉によって人は甦る

「たった一言が人の心を傷つける」

「たった一言が人の心を温める」

印象的な言葉でした。

式典・講演会・祝賀会も恙なく終了致しましたこと、改めて心より厚くお礼申し上げます。

皆様の善意の「愛の募金」は、更生保護施設へ寄贈、また対象者の支援、各児童館へ「愛の図書」贈呈、子育て支援等に活用させていただいております。微力ながら社会に貢献していることを形として表すことが出来る幸せを感じております。



私達更女は常に何が出来るかを考え、行政のご指導を頂きながら頼られる存在でありたいと思っております。

視察 研修

那須トリートメントセンター

今回視察研修に伺ったのは、栃木県の那須連山に囲まれた自然豊かな場所に立地する那須トリートメントセンター（那須TC）です。

ここは薬物から解放されるためのプログラムを持つ、民間の薬物依存症リハビリ施設です。

最近大きな社会問題になっている危険ドラッグによる事件、事故。薬物依存の恐



那須トリートメントセンター前集合写真

ろしきはニュース報道で耳にすることが多くなりましたが、薬物依存症はもはや病気である、という認識はあまり広まっていません。

那須TCは入寮型で、男性のみ20数名がスタッフと共同生活をしています。スタッフは全員が薬物依存からの回復者です。2階建ての施設内は、居室部分と事務所やミーティングルームなどがあり、きれいに整頓されています。

見学後、スタッフの方たちの貴重な体験談を目の前で聞くことができ、薬物関連の対象者を担当する私たち保護司にとってもあらためて薬物からの離脱の困難さを考えさせられました。

栃木ダルクの事業で、初期断薬プログラムをここ那須TCで行うそうですが、グループセラピー、スポーツや

音楽などレクリエーションを通して仲間との一体感を得るプログラムも大切な社会復帰へのステップとなっているようです。

《参考》

ダルク(DARC)とはドラッグ(D薬物)、アディクション(A依存)、リハビリテーション(R回復)、センター(C施設)の頭文字をとった造語で、全国に40以上の施設があり、利用者、施設、地域により内容は違う。医療機関や自助グループと連携をとりながら薬物等依存からの回復支援を実施。

栃木ダルクには4つの入寮型施設がある。

- ピースフルブレイス
 - 那珂川コミュニティファーム
 - 那須トリートメントセンター
 - 宇都宮アウトパシエント
- (一部栃木ダルクHPより引用)

(細井)

体験談

自分にとっての薬

ユメ(仮名)

自分は家庭にあまり恵まれずに子供の頃を過ごしました。

何をすることも怒られて育ち、物心がついた時にはいとこの家に預けられていましたし、肩身の狭い周りに気を使ってしか生活できない子供だったと思います。

そんな自分が薬物に出会ったのは高校生の時でした。高校は全寮制でしたし地元からは離れた場所にありましたが、そこで知り合った友人と最初のうちはベンジンを吸っていました。そのうちに暴走族の友達ができ、その人の家に遊びに行くようになりました。

そこで初めてトルエンに出会いました。初めて使った時、見栄をはって「俺はトルエンをやったことがあるぞ」と言っていました。ですが実際にトルエンを吸ってみると今までのベンジンとは違い凄い幻覚が見えて自分の事が分からなくなってしまう感じがしました。とても衝撃的な出会いで、こんなに楽しいものがあるとは思っていませんでした。

そのうちに高校も中退して地元に戻り今度は自分が暴走族に入りました。そこからはシンナーと暴走族の集いに明け暮れ、毎日が楽しくて仕方なかったのを見えています。

ただ今思えば、多分楽しかったのは自分だけで周りの人達は楽しくなかったんでしょうね。自分

はシンナーを吸うと怒りっぽくなって周りの人達を威嚇したり、暴力を振るったりしていましたから。当然ですけど周りの友達とは自分から離れていました。

その頃にマリファナに出会いました。マリファナを使うと、とても楽しくて気分がとても良くて笑っぱなしでした。

18歳くらいになってヤクザになったんですが、少年院に入ったのを切っ掛けに1年か2年くらいで逃げ出しました。ヤクザをやめる時に助けてもらおうと頼ったのが暴走族時代には対立していた人なんですが、どうしようもなかったんで：仕事も紹介してもらいました。

そんな時に覚醒剤と出会いました。その時も俺は「やった事があるんだぞ」って周りの人たちに見栄をはって使いました。トルエンの時と同じように：

全ての疲れが無くなり、心が落ち着き、今までに味わったことがない感覚になりました。

ただ、半年位で覚醒剤は使わなくなりました。シンナーの方が楽しかったんです。覚醒剤をやめてシンナーを使う、何だかいいんだが悪いんだかわからないですけどね。

22歳で結婚をして、子供が出来て、幸せが少しずつ近づいていたような気がします。これで落ち着いていたら良かったんですけど、仕事はいい加減、考え方も自己中心的で結局は23歳で離婚をしました。

それから26歳だが28歳までは薬は使わなかったのですが、何を思ったんですかね？？なんとなく

薬を買いに行きました。マリファナが吸いたくて売人の所に行ったんですが、「覚醒剤を1回買ってくれたら次からマリファナ売ってあげるよ」と言われて仕方ないから覚醒剤を買いました。そこから自分はキチガイのようにシャブ漬けになりました。量も少しずつ増えて1回で約1万円。周りの人間はだんだん減っていき薬が唯一の友達になりました。使えば使う程自分はおかしくなるしコントロールも利かなくなり、アパートの電気とガスも止められるようになりローソクの火で生活するようになりました。それでも薬は止まりませんでした。全ての人に見捨てられた感覚になり、車の中で生活し始めました。いつしか金もなくなり、気が付いてみたら交番に飛び込んでいました。幻聴や指令のようなものが自分から離れなくなり、どうすることも出来ませんでした。

結局は執行猶予で出てきたんですが普通の社会生活についていけなくなっていて精神病院に入退院を繰り返して、約4年位でダルクに入寮することになりました。

ダルクに入寮した頃には幻聴はなくなってきたので自分で自分なりにプログラムに集中できました。ただ、頑張りすぎというか力を入れすぎていたのかもしれない。いい加減が良いと仲間から聞いていたんですが、「俺はこいつらとは違う、仕事もしていたし、病気なんかじゃない。」と。

しかし、毎日ミーティングを重ねて、仲間の話を聞き、自分の話をしていくうちに、皆と自分の過去してきた経験にあまり変わりがないという事に気づいていきました。自分も同じ薬物依

存症という病気なのだという事を受け入れることができました。病気だということを受け入れると、とても楽になりました。今まで意志の問題だといろんなことをしてきた、ことごとく失敗していたからです。病気なのだから回復していけば良いんだ。という考え方はとても自分を楽にしてくれました。

病気なのだから、どんな治療をすれば良いのか。施設のスタッフに「生き方を変える」ということが治療だと教わりました。いろいろ考えてはみたものの自分にできることは、まず行動を変えるということでした。今まで言ったことなかった「ありがとう」から始めてみました。いままでは謝っているみたいな「すみません」から感謝の「ありがとう」にかえるということは、少し恥ずかしいような気がしましたが、とても気持ちの良いものでした。そのことが薬物依存からの回復の大きな一歩となりました。

考えてみると、それまでの私は、悪いことをしたときにだけ謝って（言い訳をして謝らないこともあった）、何かしらいつも悪いことは人のせい、良いことだけは自分のおかげと人や物事に感謝するということができなかったことにも気づくことができました。

そして、今があります。私はクスリを使って生きてきたことを、悪いことだけではないと思っています。それは、この「生き方を変える」プログラムに出会えることが出来たからです。ありがとうございます。

更生保護制度施行65周年記念 第61回埼玉県更生保護大会開催される

11月12日埼玉会館大ホールにおいて埼玉県更生保護大会が開催され、更生保護関係者が一堂に会しました。

開会の挨拶のあと、筑波大学 土井隆義教授による「つながりを煽られる若者たち」と題した講演が行われました。

昨今 若者の人間関係は身近な友人からの評価や承認を求める傾向が強く、リアルな関係をより円滑にするためのネット依存、つながり依存に陥っている、と興味深いお話でした。



式典では顕彰が行われ、当保護司会でも法務大臣表彰4名の方をはじめ、計21名の方がそれぞれ受賞、感謝状の贈呈がありました。
(細井)

法務大臣表彰

齋藤 典子(蔵) 泉山 高子(蔵)

秋元 豊子(戸田) 貫井 和子(蔵)

全国保護司連盟理事長表彰

金子 篤徳(戸田)

関東地方更生保護委員会委員長表彰

奥墨 健司(戸田) 金子 耕治(戸田)

金子 秀一(戸田) 川島 善徳(蔵)

駒崎 恭子(戸田) 小山 一夫(戸田)

寺尾 博(戸田) 真下 賢(蔵)

渡辺 彰七(蔵) 榎本 忠(戸田)

埼玉県知事感謝状

結城 辰雄(蔵)

さいたま保護観察所長表彰

秋元 徳夫(戸田) 須永 年長(蔵)

細井 玲子(蔵) 中崎 敏子(戸田)

春山 嘉正(戸田)

埼玉県保護司会連合会会長表彰

星 宏和(戸田)

保護司の異動

退任にあたり

熊木 秀夫

保護司として35年有余、更生保護に携わり、会員の皆様には筆舌では表せぬご厚情を賜りながら今日に至ってしまい心苦しく存じております。皆様のお陰で無事退任し、人生の一页を綴る事ができ、皆様のご厚情に深く謝意を表しますと共に今後とも宜しくお願い致します。

柳 宣子

保護司の拝命を受け、22年間皆様の御指導を頂き無事退任する事が出来ました。又昨春秋に「法務大臣表彰」を受賞する事になり身に余る光栄でございます。保護司会会員の皆様には、大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

奥墨 芳枝

保護司を拝命いたしましたから二十幾年、多くの出会いがありました。この間社会状況の変化など、世の中のことを理解すべき努力もしてまいりました。おかげさまで学ぶこともたくさんあり、今まで健康で過ごせましたことに感謝しております。

今後、蔵・戸田保護司会が、益々充実されますことを、お祈り申し上げます。

退任(その他)

猪瀬 松枝(蔵)

萩野 勝弘(戸田)
小宮 勉(戸田)

新任

大山 正治(戸田)
武内 正史(戸田)

編集後記

昨年は自然の災害が多く発生し、多大な犠牲を出しました、想定外の現象で常に非常時の携帯品や心の準備をしていた方が良いと思います。危険ドラッグによる人身事故が多発しています。近隣の絆がますます必要になるでしょう。

今回保護司便り第2号を発行する運びになりました、戸田市長さんをはじめ、ご寄稿いただいた皆様の玉稿ありがとうございます。特別の記事として栃木ダルクの那須トリートメントセンターの体験談を載せました。今年をサポートセンターの開設を予定しております。保護司の皆さまのご協力をお願い致します。

編集委員長 山内俊和

編集委員

秋元 徳夫 細井 玲子 山内 俊和
泉山 高子 本橋 恵子 山本 久枝
奥住美千子 三輪 一榮 (50音順)